

# 比較思想としての 天長六本宗書

『秘密曼荼羅十住心論』を中心に

師 茂樹（花園大学）

# はじめに① 哲学としての比較思想

- 高山岩男（1905-1993）「理性・精神・実存」  
（1967）
- ヨーロッパ哲学（ドイツ唯心論～現代哲学）、ギリシャ哲学、小乗仏教～大乘仏教～鎌倉新仏教などに、  
理性→精神→実存という「内面的必然性」
- 複数の哲学・思想のうちに内面的必然性を見出すこと  
＝「哲学の哲学」
- 教相判釈やヘーゲル哲学は「哲学の哲学」
  - 「教判はもともと哲学的なる仏教の中でも最も哲学的なる思想」



# 教相判釈と世界哲学

- 「哲学の哲学」 = 諸哲学・思想間の普遍的な原理（内面的必然性）を見出そうとする試み
- 世界哲学 = 世界の哲学的伝統のなかに普遍性を見出そうとする試み
  - 納富信留「これまで西洋、ヨーロッパと北アメリカを中心に展開されてきた「哲学」という営みを根本から組み変え、より普遍的で多元的な哲学の営みを創出する運動、それが「世界哲学」と呼ばれる。」（『世界哲学史1』）
- 教相判釈と世界哲学は共通の課題に取り組む哲学的営み

## はじめに② 「哲学の哲学」の“傲慢”

- ヘーゲルが、神にも匹敵する「賢者」の位置に自身を置こうとする“傲慢さ”に対する批判 (Berthold 2009)
- 徳一「今、汝の四教は誰の言葉なのか。ブツダが説かれた三時教を退けて、凡人の臆説である四教を立てるのは、顛狂人ではないのか。……何ということだ、智公〔智顛〕よ。汝は誰の弟子なのか。三寸にも足りない舌で、顔を覆う舌〔を持つブツダ〕の説を覆そうというのか。」 (最澄『守護国界章』)

# はじめに③ 天長六本宗書

## • 天長六本宗書

- 三論宗・玄叡『大乘三論大義抄』
- 法相宗・護命『大乘法相研神章』
- 華嚴宗・普機『華嚴宗一乘開心論』
- 律宗・豊安『戒律伝来記』
- 天台宗・義真『天台法華宗義集』
- 真言宗・空海『秘密曼荼羅十住心論』

## • 他宗の教義の紹介、批評

- 各宗の教相判釈（「哲学の哲学」）を比較するメタ「哲学の哲学」

# 仏説という権威



# 遠ざかるブツダの真意



阿含経



般若経



解深密経



.....

声聞乗  
菩薩乗

初 時 声聞乗  
第二時 菩薩乗  
第三時 一切乗

小乗教  
大乘始教  
大乘終教  
頓教  
円教

.....

# 繰り返される = 普遍性がある？

- 護命『大乘法相研神章』の「滅後の三時」
  - 釈迦の三転法輪が歴史上何度も繰り返される
  - Cf. 『日本霊異記』における繰り返される「霊異」
  - Cf. 高山岩男もまた「理性→精神→実存」が何度も繰り返されると考えていた。



# 空海① 無限後退を止める法身仏

.....



法相



三論



天台



華嚴



法身仏

## 空海② 真言という共通原理

- 各宗の「不共真如」（共通性のない真理）を生み出す「真言」
- 「真言」はそれ以上のメタ原理を持たない無始無終のもの
- 法身仏＝真言とすることで、「哲学の哲学」の傲慢を回避しつつ、仏説を権威とすることのアポリアも回避
  - 教相判釈をめぐる思想的課題への回答？